

スカパーJSATグループ 2015年度 1Q決算説明会

2015年7月30日(木)

株式会社スカパーJSATホールディングス

将来の見通しに関する記述について

本説明資料に掲載されている予想、戦略、経営方針、目標等のうち、歴史的事実でないものは、将来の見通しに関する記述であり、現在入手可能な情報にもとづく経営者の前提、計画、期待、判断などを基礎としています。これらの将来の見通しに関する記述は、様々なリスクや不確定要因の影響を受けるため、現実の結果が想定から著しく異なる可能性があります。このようなリスクや不確定要因のうち、現在想定しうる主要なものには、以下のようなものが含まれます。

なお、リスクや不確定要因はこれらに限られるものではありませんのでご留意下さい。

《経営全般に関するリスク》

- 当社グループの事業に係わる法的規制等による事業の制約のリスク
- 顧客情報のセキュリティ及び顧客情報管理システムの障害に関するリスク
- 大規模災害による重大設備障害に関するリスク

《衛星インフラに関するリスク》

- 通信衛星の機能不全や運用能力低下に関するリスク
- 通信衛星調達に関するリスク
- 衛星への保険付保に関するリスク

《有料多チャンネル放送プラットフォームサービスに関するリスク》

- 加入者獲得、維持に関するリスク
- 放送事業者に関するリスク
- ICカードのセキュリティ等に関するリスク

第1四半期連結決算概要

損益概要

- ✓ 標準画質サービス終了による影響で、前年同四半期比、減収減益。

(単位: 百万円)

	FY2014 1Q	FY2015 1Q	増減率	通期予想 進捗率	FY2015 通期予想
営業収益	42,239	41,122	△2.6%	24.5%	168,000
営業利益	7,015	5,855	△16.5%	25.5%	23,000
経常利益	7,067	5,792	△18.0%	25.7%	22,500
親会社株主に帰属する 四半期純利益	6,587	3,788	△42.5%	26.1%	14,500
EBITDA ^{*1}	13,698	11,343	△17.2%	—	—

*1. EBITDA = 当期純利益 + 税金費用 + 支払利息 + 減価償却費

有料多チャンネル事業の主要指標(*)

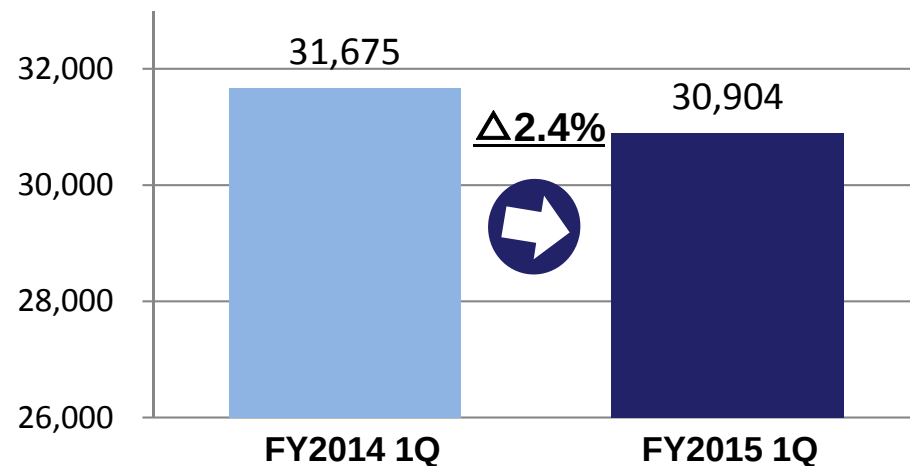
	FY2014/1Q	FY2015/1Q	FY2015 通期目標
新規加入件数(万件)	10.5	12.0	48.2
純増数(万件)	△24.8	2.3	7.5
累計加入件数(万件)	346.8	348.4	353.7
加入者月額支払単価(¥)	3,253	3,378	-
ARPU(¥)	2,173	2,232	-
SAC単価(¥)	31,045	32,051	-

* スカパー！、スカパー！プレミアムサービス、スカパー！プレミアムサービス光の合計値

有料多チャンネル事業の業績概況：前年同四半期比

営業収益

(単位：百万円)



営業収益(▲7.7億円)*

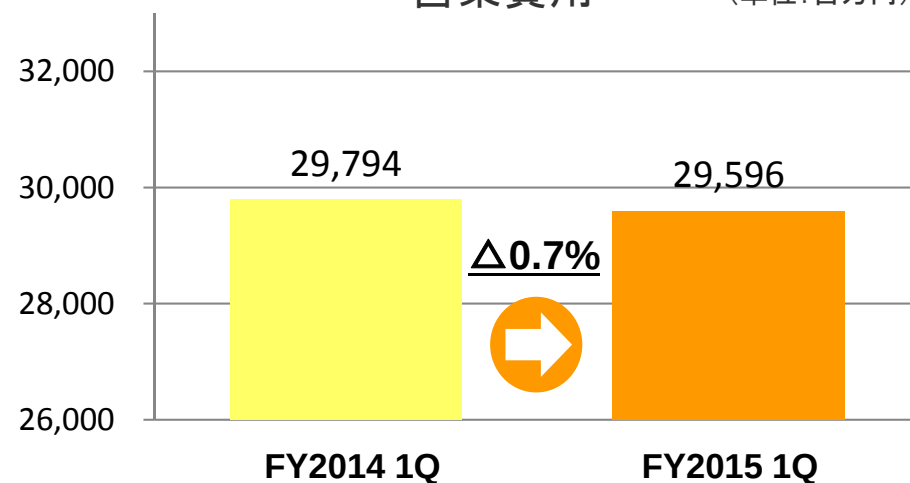
<主な増減要因>

* セグメント間内部取引を含む。

- スカパー！業務手数料収入増加：+3億円
- 標準画質サービス業務手数料収入及び送信料収入減少：▲5億円
- ハイビジョンサービス視聴料収入の減少：▲4億円

営業費用

(単位：百万円)



営業費用(▲2.0億円)*

<主な増減要因>

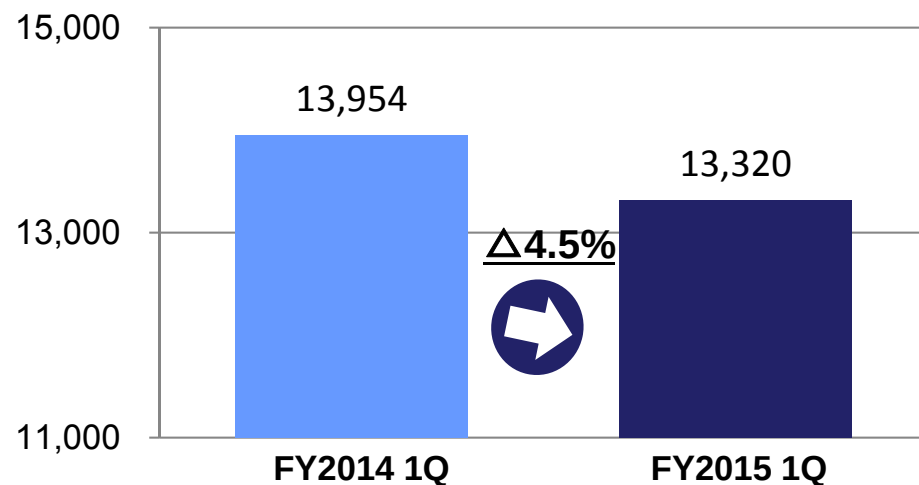
* セグメント間内部取引を含む。

- コンテンツ費用の増加：+14億円
- ハイビジョンサービスへの移行費用の減少：▲6億円
- その他費用の減少：▲10億円

宇宙・衛星事業の業績概況：前年同四半期比

営業収益

(単位：百万円)



営業収益(▲6.3億円)*

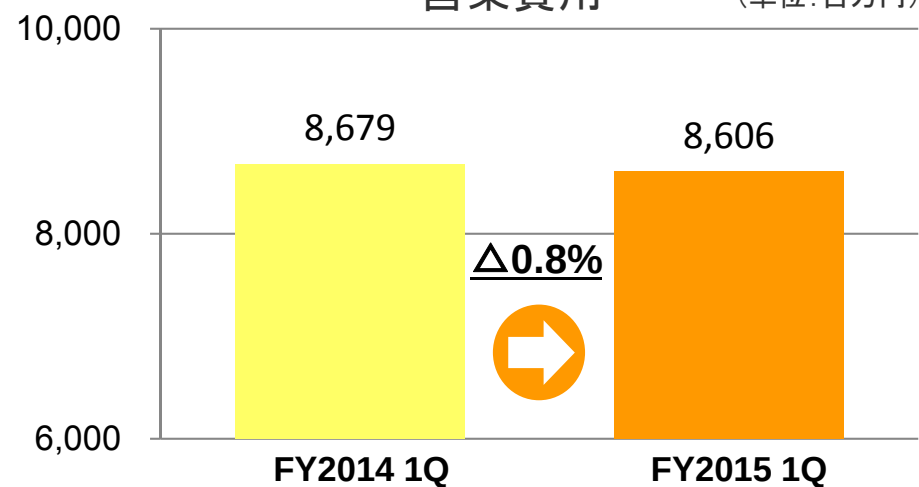
<主な増減要因>

* セグメント間内部取引を含む。

- 標準画質向け放送トランスポンダ収入の減少：▲14億円
- ハイビジョンサービス向け放送トランスポンダ収入の増加：+3億円
- 船舶向けインターネットサービス収入の増加：+3億円

営業費用

(単位：百万円)



営業費用(▲0.7億円)*

<主な増減要因>

* セグメント間内部取引を含む。

- 大きな変動要因なし

今後の取り組み
～有料多チャンネル事業～

契約者総数・視聴料総額拡大への戦略

スカパー！の強みを活かした差別化戦略を推進

施策1: 「生中継」コンテンツによる拡大

- ✓ 強力な生中継コンテンツ(スポーツ/大型音楽Live 等)により加入きっかけを創出
- ✓ 6月以降、加入料0円キャンペーン※ ⇒ 加入最大化
※ 2015年7月31日まで実施



完全生中継『Mr.Children TOUR 2015 REFLECTION』ツアーファイナル



写真提供: 広島東洋カープ

施策2: 海外サッカーによる拡大

- ✓ コパアメリカ チリ2015(6月12日～7月5日)を全試合生中継 ⇒ 解約防止
- ✓ 視聴料割引キャンペーン ⇒ 商品契約数の拡大



施策3: 4K放送による拡大

- ✓ ビッグアーティストライブ(Mr. Children、ポール・マッカートニー)
- ✓ 6月からはハリウッド作品を放送開始



© 2014 Columbia Pictures Industries, Inc. and LSC Film Corporation. All Rights Reserved. Marvel, Spider-Man and all related character names and their distinctive likenesses: TM & © 2014 Marvel Entertainment, LLC and its subsidiaries. All Rights Reserved.

施策4: 選択性商品による拡大

- ✓ セレクト5により、満足度の高い視聴契約を提案 ⇒ アップセルへ

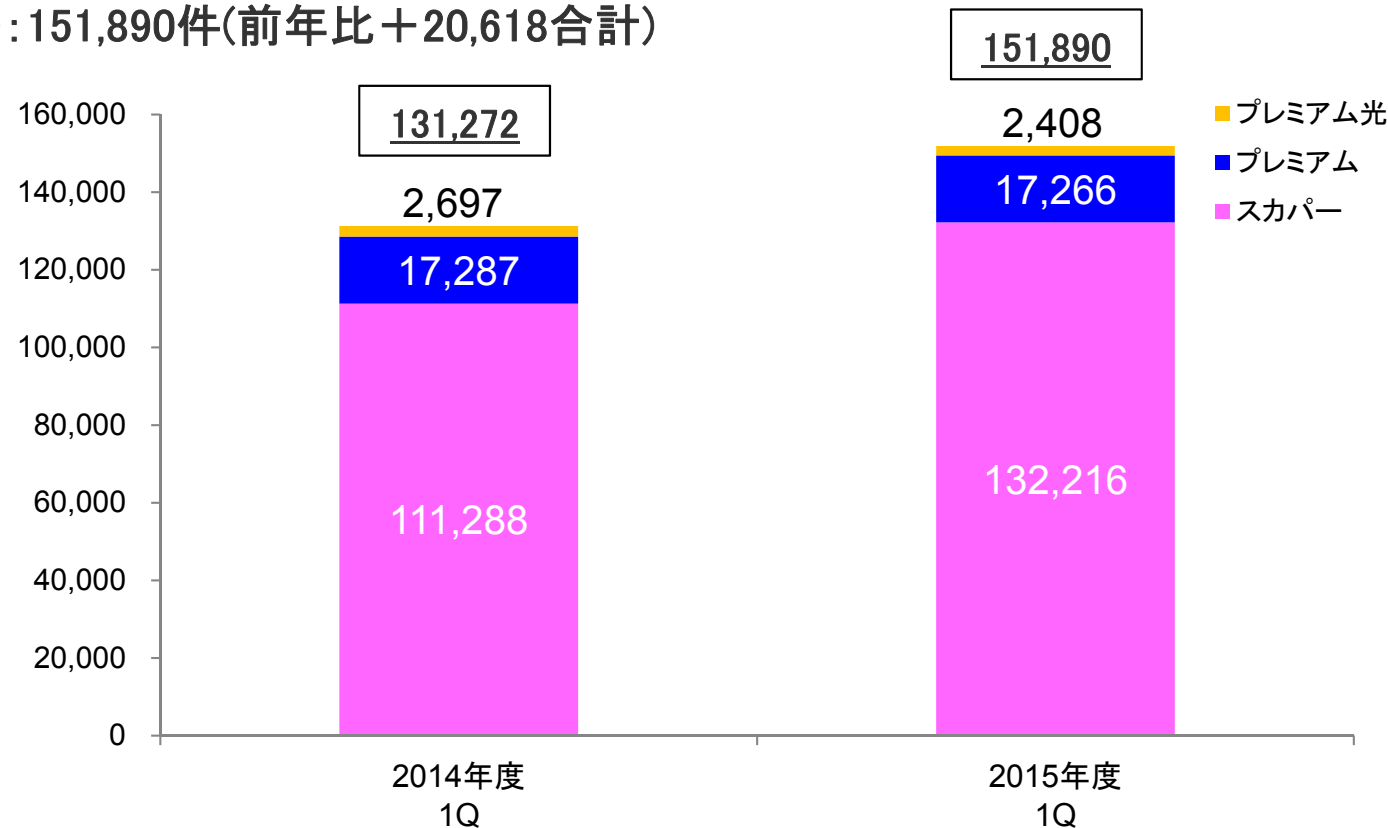


2015年度1Q施策効果

新規・再加入件数は2014年度1Qを上回る実績

✓ 新規・再加入 件数実績

- 2015年度1Q: 151,890件(前年比+20,618合計)



✓ スカパー！サービス — コンテンツ視聴料収入増(前年比)

- セレクト5 / プロ野球セット / サッカーセット関連

今後の取り組み

生中継コンテンツ等による差別化継続と4Kコンテンツの更なる充実

✓ 8月以降も加入きっかけに繋がる生中継コンテンツに継続して取り組む

生中継コンテンツ

①音楽LIVE



flumpool 真夏の野外★LIVE 2015「FOR ROOTS」
BSスカパー！&4K総合 同時生中継

②スポーツ



8月 欧州サッカー各国リーグ開幕/
9月 UEFA チャンピオンズリーグ開幕



ラグビーワールドカップ2015
イングランド大会
(J SPORTSで全48試合を生中継！)

✓ 4Kコンテンツがますます充実

スカパー！4K総合



(C) 福本伸行／竹書房



© Yasuyuki Kasagi

オリジナル連続ドラマ「アカギ」4K

FUJI ROCK FESTIVAL '15

スカパー！4K映画



© 2002 Columbia Pictures Industries, Inc. All Rights Reserved.

メン・イン・ブラック2



© 1976, renewed 2004 Columbia Pictures Industries, Inc. All Rights Reserved.

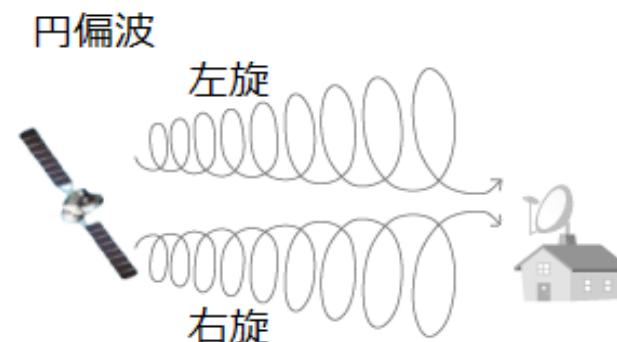
タクシードライバー

110度CS左旋における4K放送

総務省による「4K・8Kロードマップに関するフォローアップ会合第二次中間報告」公表 (2015年7月)

2017年	
衛星	・110度CS左旋において4K試験放送開始
2018年	
衛星	・BS右旋及び110度CS左旋において4K実用放送開始 ・BS左旋において4K及び8Kの実用放送開始
2020年頃	
衛星	・BS左旋において4K及び8K実用放送拡充(トランスポンダの追加割当) ・110度CS左旋において4K実用放送拡充(トランスポンダの追加割当)
2025年頃のイメージ	
・ <u>4K及び8K実用放送のための伝送路として位置付けられたBS左旋及び110度CS左旋において多様な実用放送実現</u> ・ <u>右旋の受信環境と同程度に左旋の受信環境の整備が進捗</u>	

- ・ 電波の進み方を偏波(へんぱ)といい、回転する偏波(右旋偏波/左旋偏波)を円偏波といいます。偏波を分けることで同じ周波数を2倍に利用することができます。
- ・ 現在のBS放送や110度CS放送の「スカパー！」では右旋偏波が使われていますが、今後、左旋偏波用のトランスポンダを搭載した衛星を打ち上げることで、左旋偏波を使った放送ができるようになります。



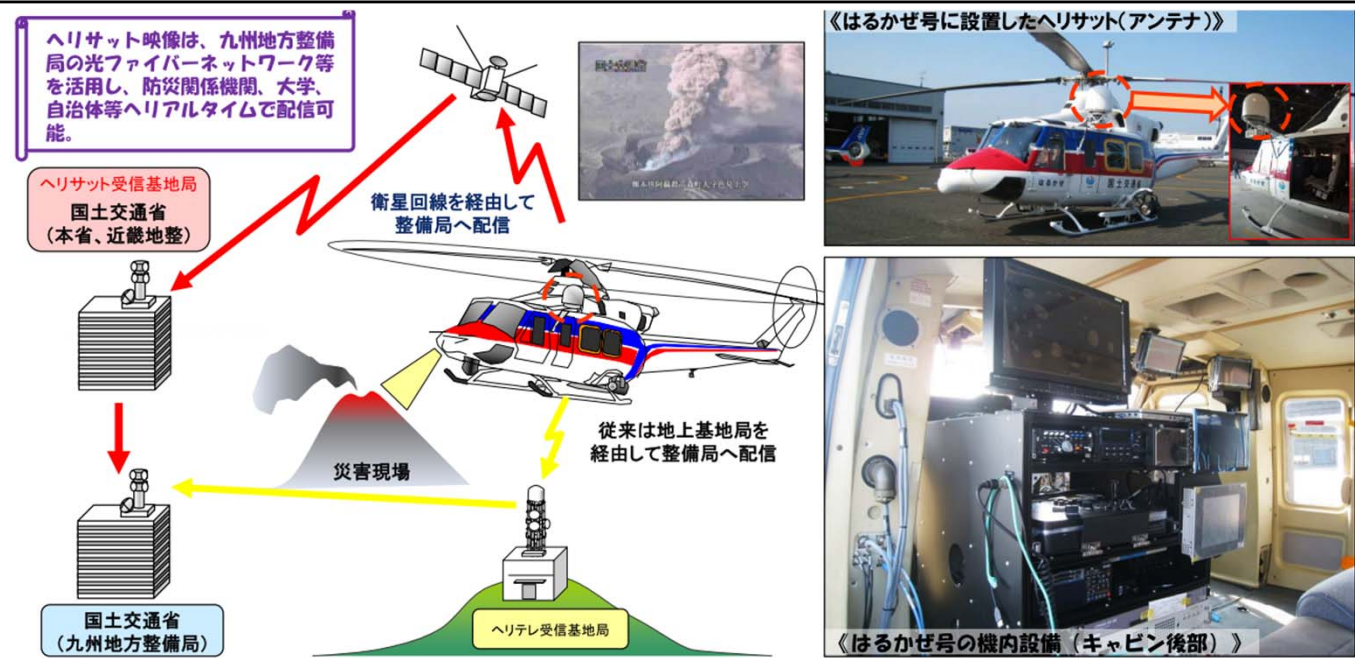
今後の取り組み
～宇宙・衛星事業～

国内市場への取り組み

✓ 防災サービスにおける活用

「ヘリサット」を搭載した災害対策用ヘリコプターが5月29日の口永良部島噴火の際に活躍。

- ・ 噴火から約4時間後には、ヘリサットを搭載した高知県消防防災ヘリが現地からリアルタイムで映像を配信。
- ・ 国土交通省は全国に保有する防災ヘリへ導入を推進。
- ・ 一般財団法人 自治体衛星通信機構(通称 LASCOM)では、昨年度より消防庁所有のヘリサット搭載ヘリコプターによる“ヘリサット映像伝送サービス”を提供中。



出典:国土交通省HP

グローバル市場への取り組み -1

✓ JCSAT-14(JCSAT-2A後継機)のカバーエリア拡大

✓ Ku-Band

- これまでの日本ビームに加え、アジア、太平洋地域を広くカバーするアジアビームとパシフィックビームを新たに搭載し、両地域の需要に対応。
- アジアビームとパシフィックビームは、拡大が続いている航空機や船舶での更なる利用を見込む。



JCSAT-2A (現用衛星)

Coverage Area

Ku-band Japan EIRP



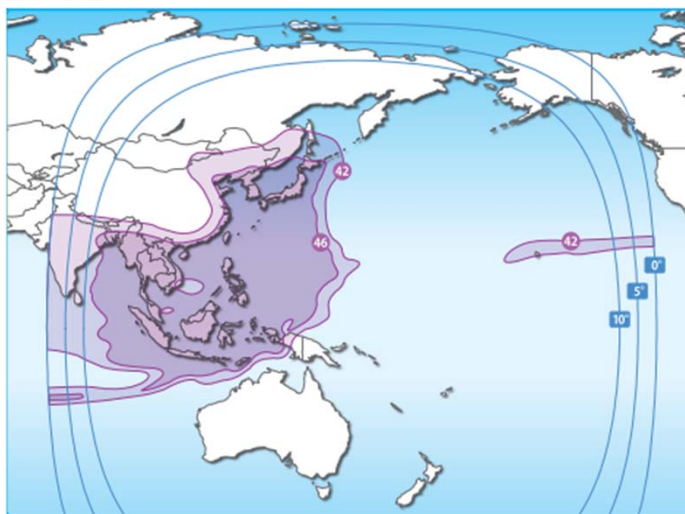
■ 57dBW ■ 55dBW ■ 52dBW ■ 48dBW



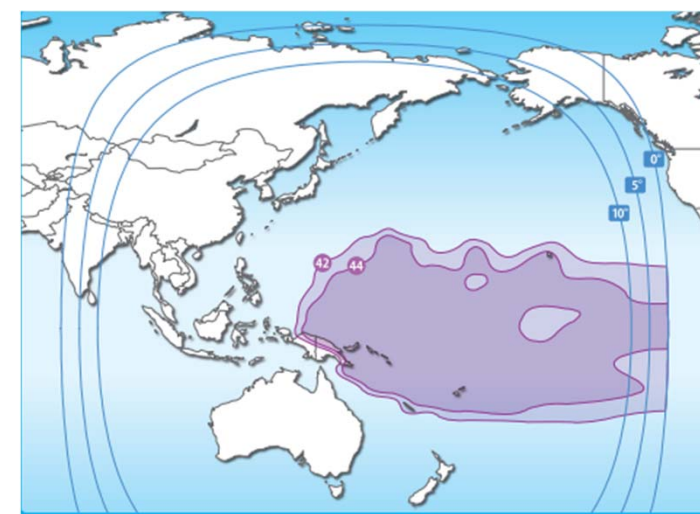
JCSAT-14 (後継衛星)

Coverage Area

Ku-band



Asia Beam



Pacific Beam

グローバル市場への取り組み -2

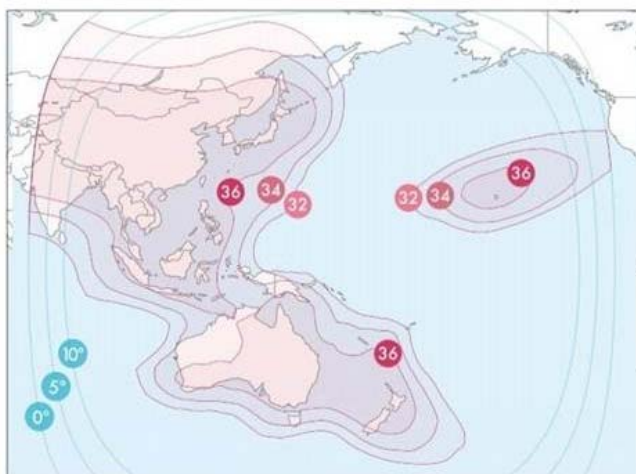
✓ C-Band

- 提供帯域が3倍に増加。
- これまでのアジア、オセアニアに加え、ロシア、太平洋地域におけるカバーエリアを更に拡大。
- 提供帯域とカバーエリアの拡大により更なる利用を見込む。

JCSAT-2A (現用衛星)

Coverage Area

C-band EIRP

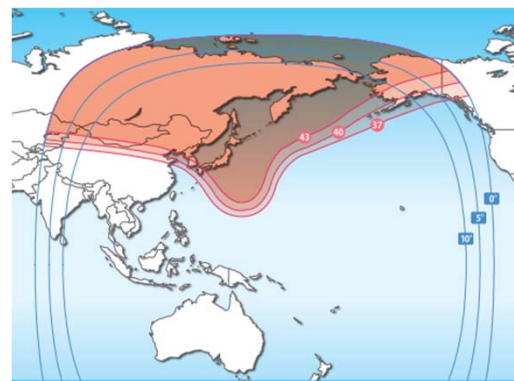


■ 36dBW ■ 34dBW ■ 32dBW

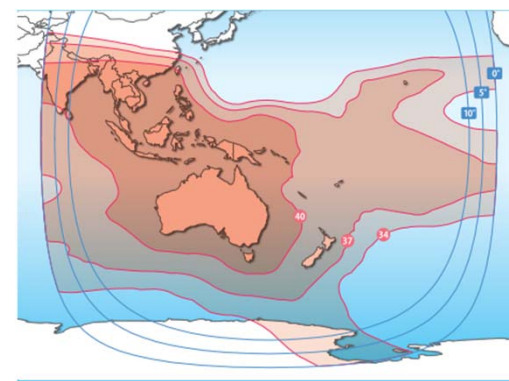
JCSAT-14 (後継衛星)

Coverage Area

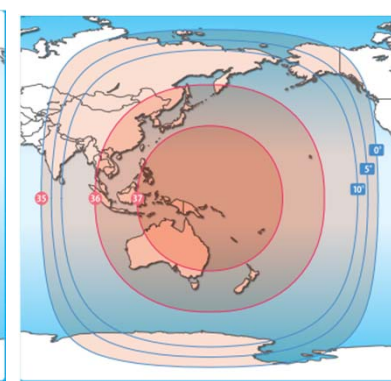
C-band



North Beam



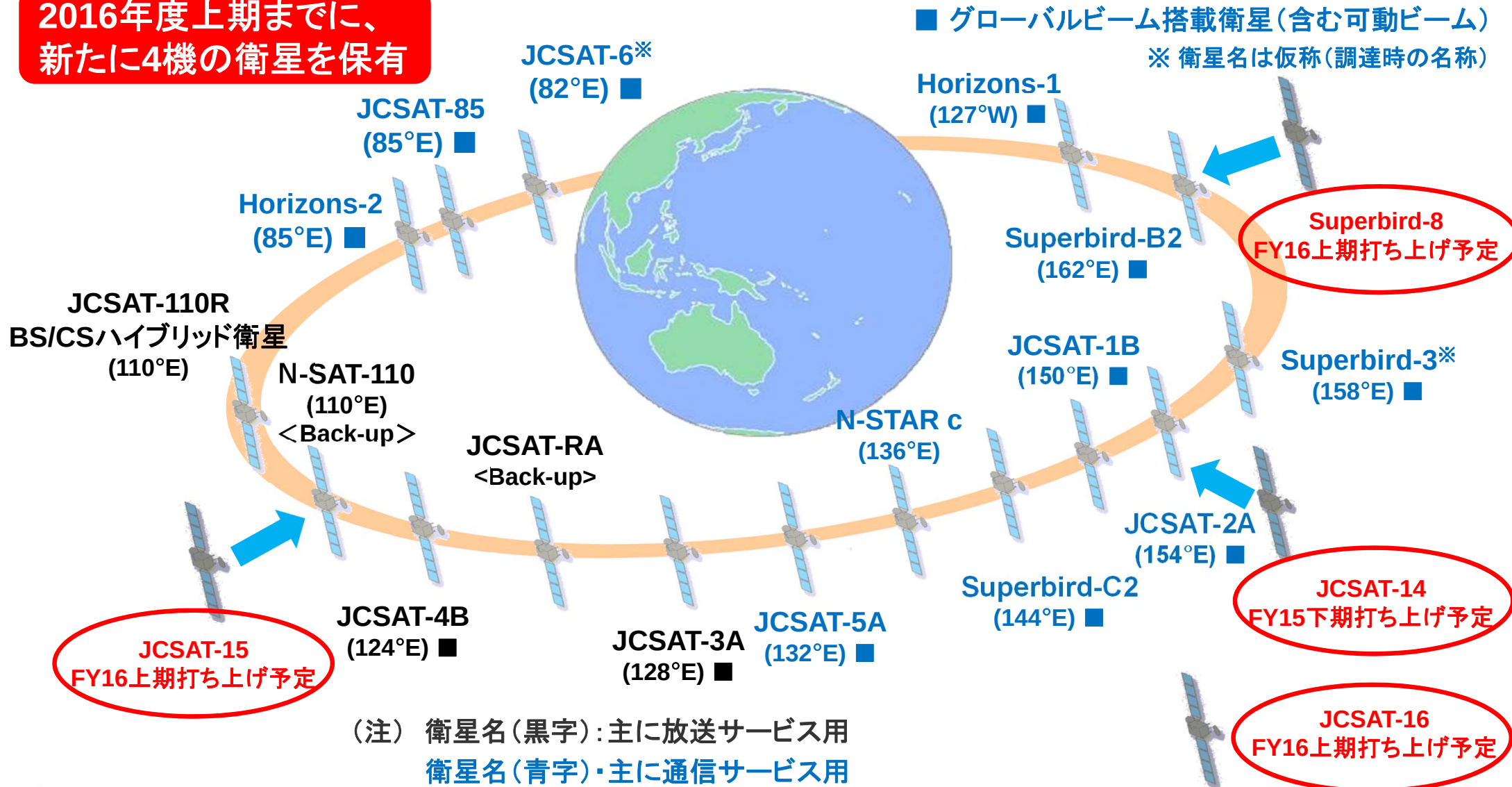
South Beam



Global Beam

北米上空からインド洋上空まで計16機の衛星を保有

2016年度上期までに、
新たに4機の衛星を保有

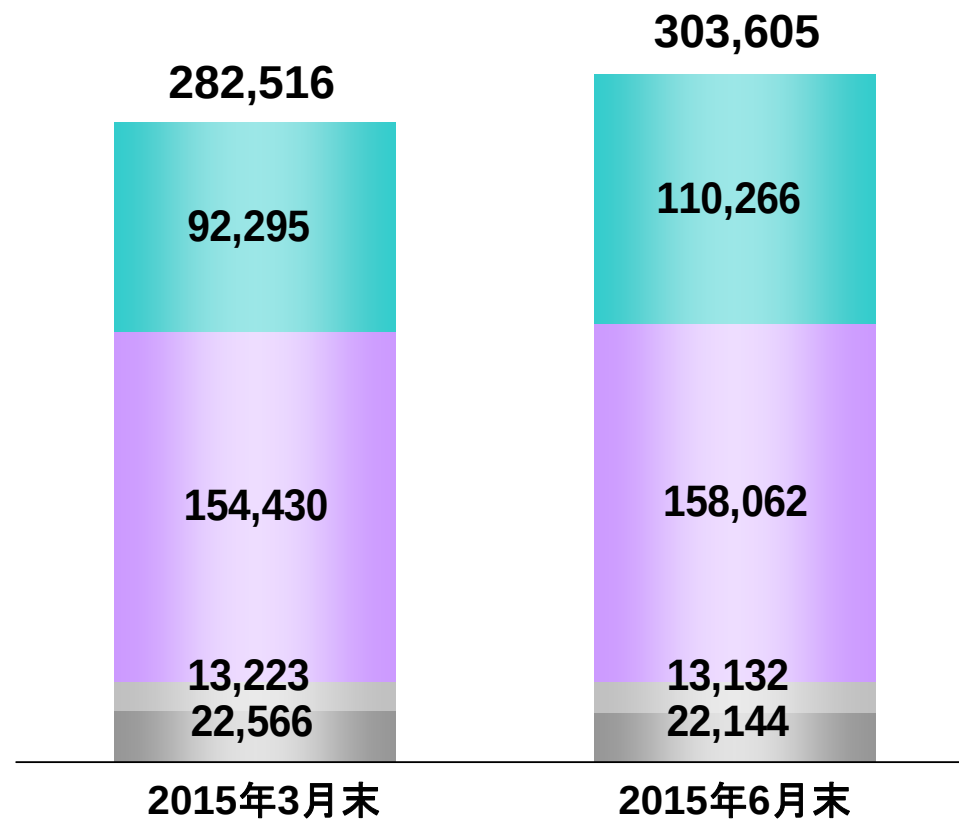


(参考資料)

連結貸借対照表

資 産

(単位: 百万円)

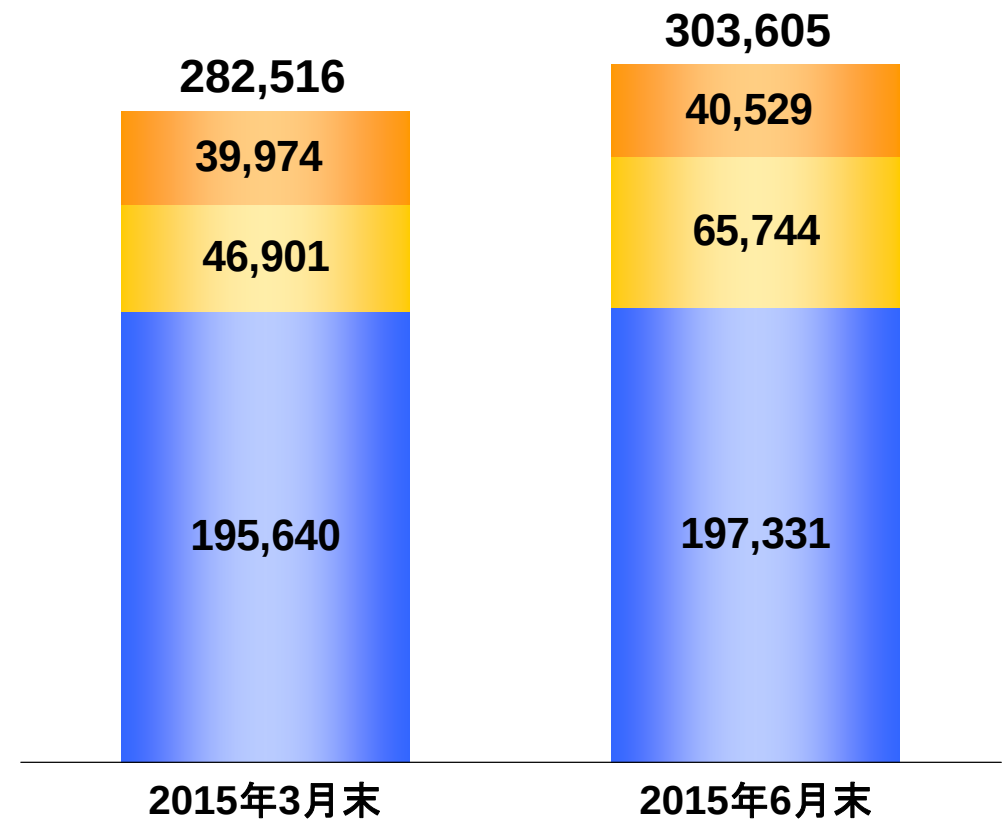


負債・純資産

(単位: 百万円)

自己資本比率: 69.2%

自己資本比率: 64.9%



■ 流動資産
 ■ 有形固定資産
 ■ 無形固定資産
 ■ 投資その他資産
 ■ 流動負債
 ■ 固定負債
 ■ 純資産

連結キャッシュ・フロー

(単位:百万円)

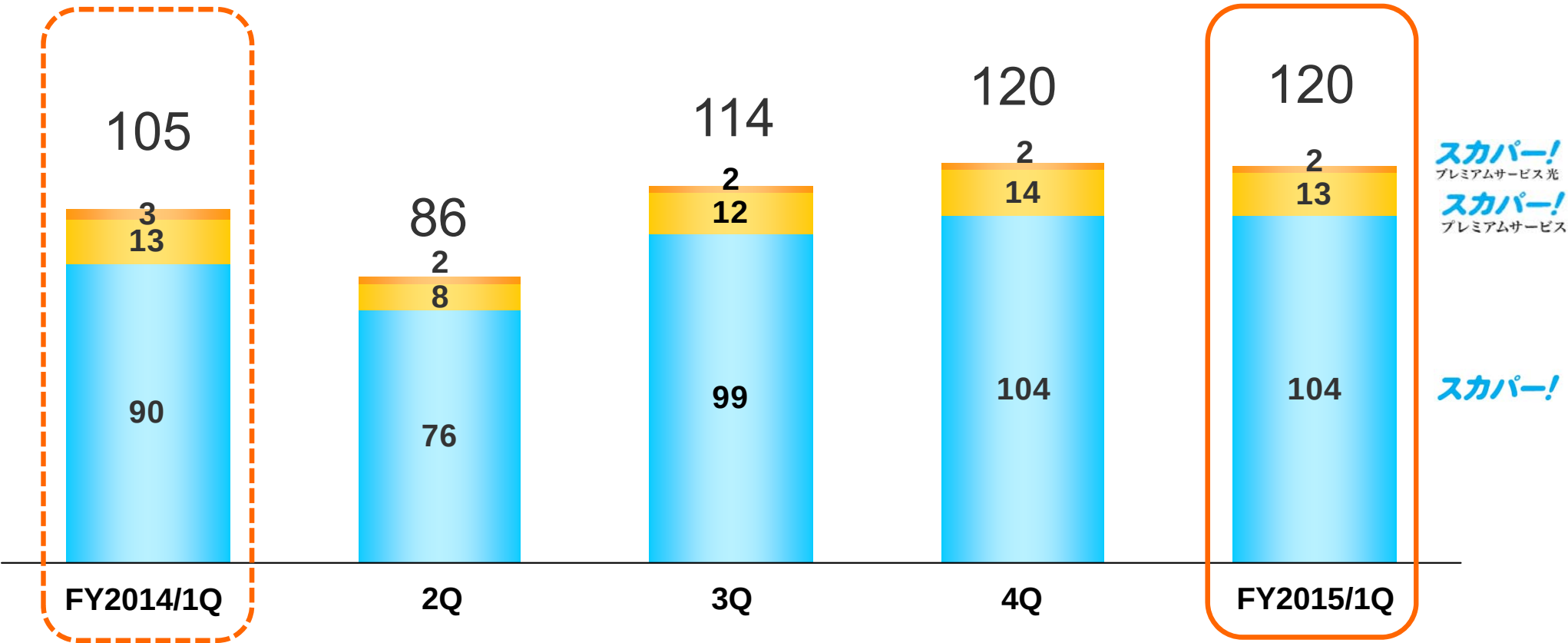
	FY2014/1Q 累計	FY2015/1Q 累計
営業活動によるキャッシュ・フロー	8,927	10,784
投資活動によるキャッシュ・フロー	△1,642	△10,066
フリー・キャッシュフロー (*1)	7,284	682
財務活動によるキャッシュ・フロー	△2,759	17,868
現金及び現金同等物の期末残高(a)	68,284	52,515
有利子負債期末残高 (*2) (b)	45,335	58,366
純有利子負債期末残高 (b)－(a)	△22,948	5,851

*1. 営業活動によるキャッシュフロー＋投資活動によるキャッシュフロー

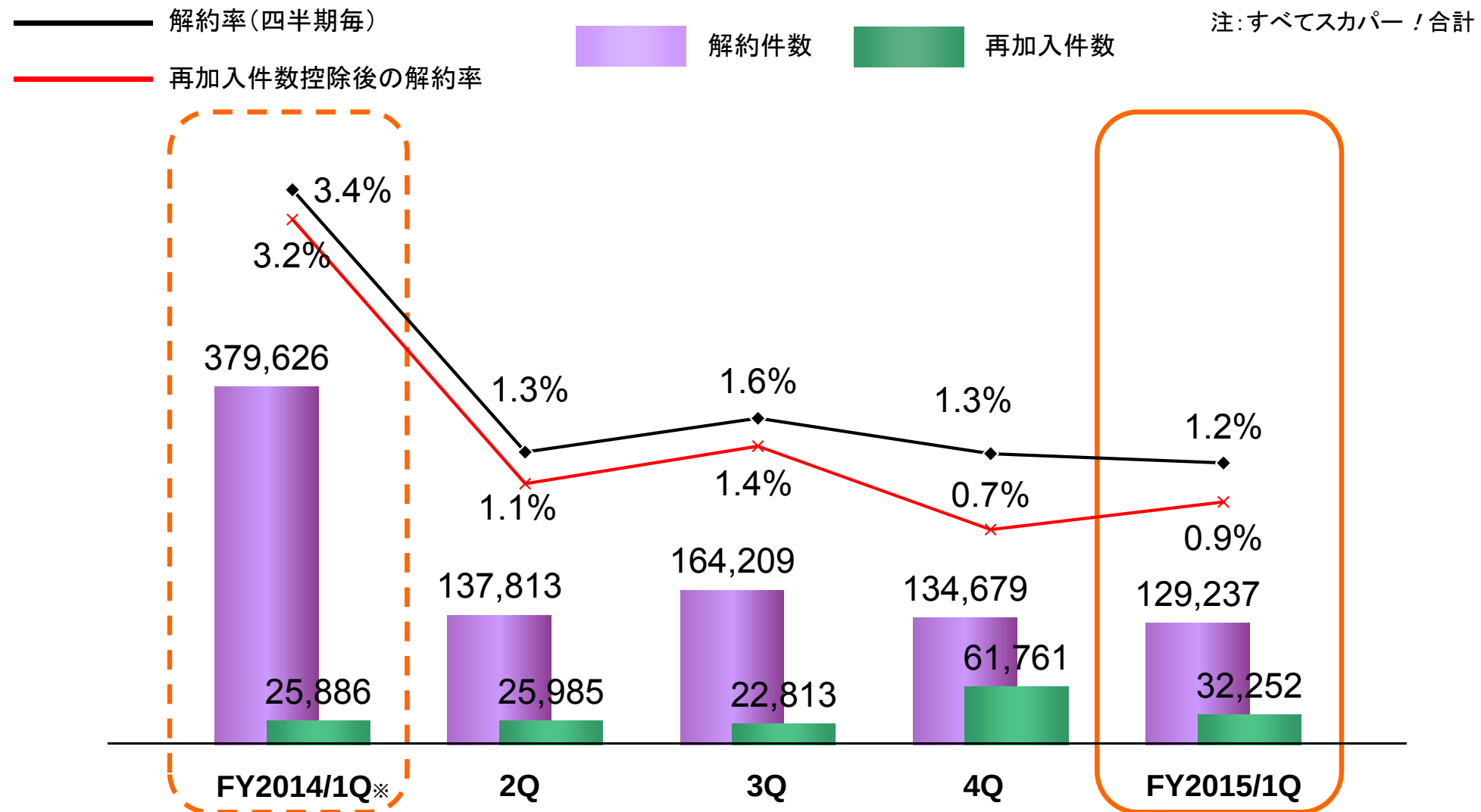
*2. 借入金＋無担保社債

新規加入件数の推移

(単位: 千件)

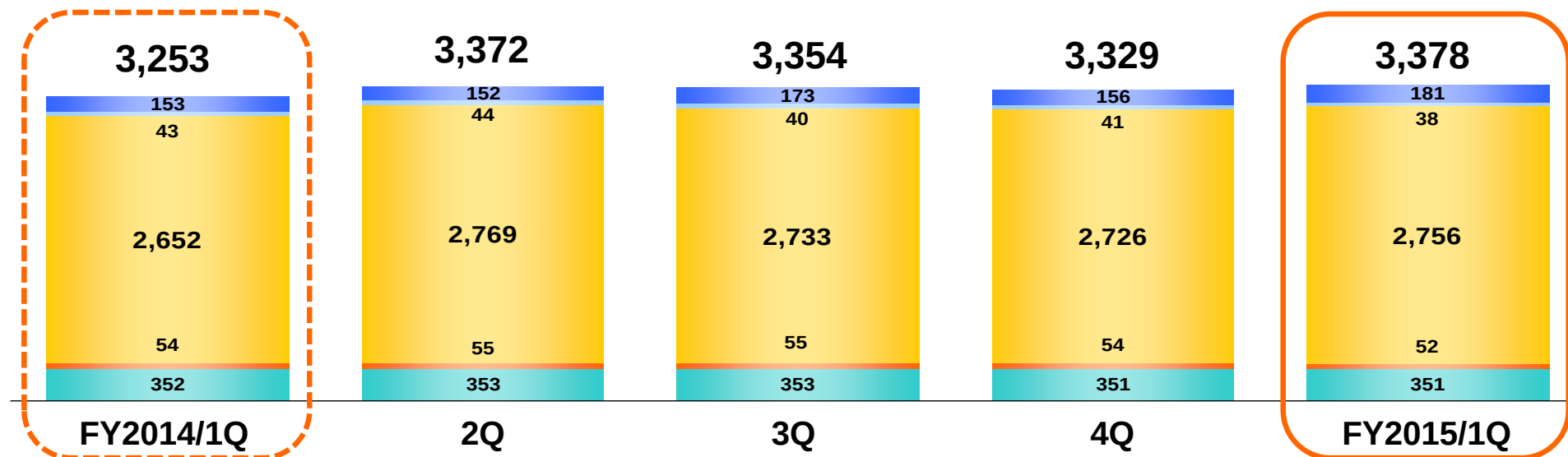


解約率の推移

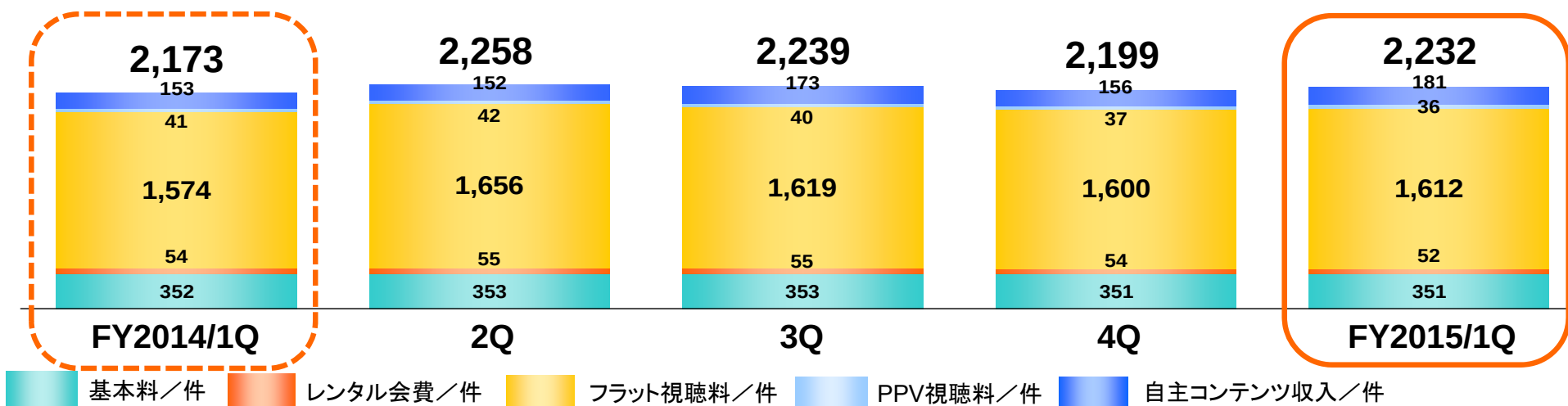


※:FY2014/1Qの解約件数、平均月次解約率、再加入件数除後の解約率が大きい理由は、2014年5月末の標準画質サービス終了に伴う解約を含むためです。

■ 加入者支払単価(¥) (*1)



■ ARPU(¥) (*2)

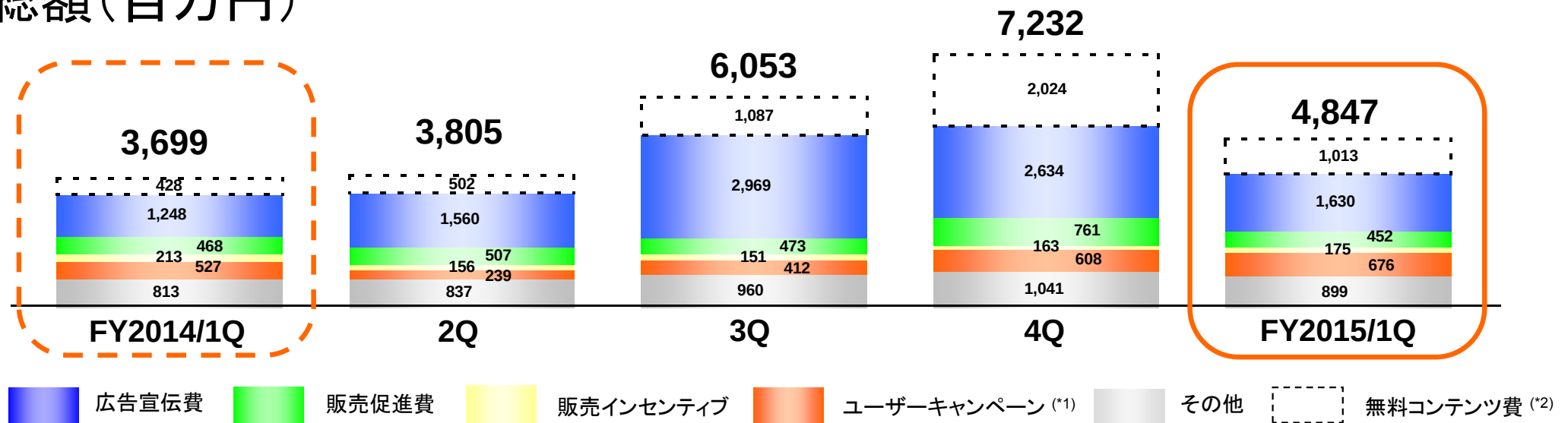


*1. 加入者が支払う月額視聴料等の平均単価

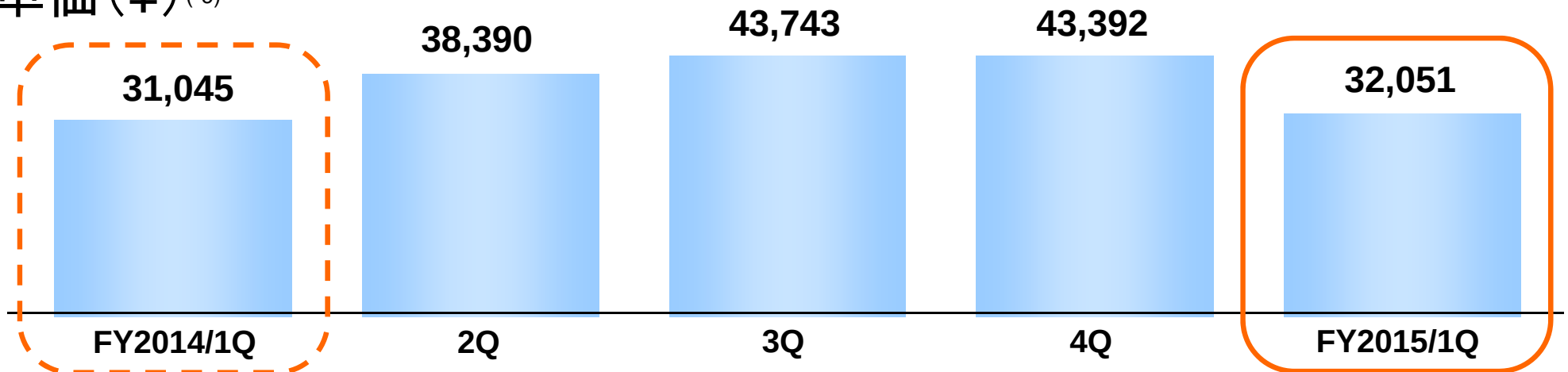
*2. 加入者が支払う月額視聴料等の平均単価の内、当社グループの営業収益として計上する金額

顧客獲得費用(SAC)

■ 総額(百万円)



■ 単価(¥) (*3)



*1. 各種顧客獲得キャンペーンに係る費用

*2. 「無料コンテンツ費」は、BSスカパー！の番組制作費等を含む。

*3. SAC単価は、SAC総額(ただし「無料コンテンツ費」は除く)を対象期間の新規加入件数で割った数値

スカパーJSATホールディングス
広報・IR部